

2015年 バチカンの主な動き

1 国内政治

(1) バチカン組織改革の一環として2014年に経済省を設置したのにつき、広報関係機関を集約して広報省を設置したほか、「信徒、家族、生命」問題を担当する新機関の設置を決定した。

また、10月には、離婚者の教会における取扱いなど、今日の家族が直面する課題を討議するための家族問題に関する特別シノドス(司教代表者会議)の第2回会合を開催した。

(2) 11月には「第2バチリークス事件」(注：法王庁の財務監査情報などが違法に新聞記者にリークされた事件)が発覚した。これは、法王の改革に対する反発の現れではないかとも考えられている。

2 対外政策

(1) 法王は、アフリカや中東などで困窮している人々、紛争や貧困のためにヨーロッパに大量に到着している難民、気候変動によって生活を脅かされている人々、貧困者、社会的弱者など、弱い立場に置かれている人々に世界の注目が集まるように努め、また、戦争・内戦、宗教対立及び民族対立などでは対話による解決を求め、そのために法王自らも積極的に行動し、影響力を行使した。

(2) 例えば、COP21開催の半年前に当たる6月には、法王は環境問題をテーマとした回勅「ラウダート・シ」を発表し、環境問題解決のための世界世論の形成に貢献した。

また、9月にはヨーロッパに到着した難民・移民家族を欧州内の全ての司教区で受け入れるよう求め、更に10月にもシリア、イラクなど中東における平和のための声明を発表するなど、法王は機会ある毎に平和の実現と難民支援を

呼び掛けた。

- (3) スリランカ・フィリピン訪問(1月)を始め, サラエボ訪問(6月), キューバ・米国訪問(9月), アフリカ(ウガンダ, 中央アフリカ)訪問(11月)など, 計5回の外遊を行った。

3 我が国との関係

- (1) 12月にはベオグラードにおいて武藤外務副大臣がギャラガー外務長官と会談し, 東アジア情勢などについて意見交換を行った。
- (2) 11月, 当館は, ローマ市内の Velabro 教会で入江要介氏による尺八コンサートを実施した。
- (3) 11月, 長崎県はカンチェレリア宮殿において, UNESCOの世界歴史遺産に登録を目指した「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」(後に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に変更)に関する展示会及び講演会を実施した。

(了)